

地球温暖化防止への取り組み

地球環境とのかかわり

地球温暖化防止への取り組み (CO₂排出量の推移)

当社は主にキュボラ設備や焼鈍炉等を持つ鉄管系工場と加工組立部門を持つ機械系工場から成り立っていますが、鉄管系工場当社全体の95%のCO₂を排出しています。主な取り組みとしては、生産方法の改善によるコークス使用量の低減、各種設備更新時にインバータ制御による電力量の低減、省エネ型トランスへの更新等の低減活動を行っています。京都議定書の基準年である1990年において当社のCO₂排出量は131,145t-CO₂でした。2008年は、75,090t-CO₂であり、基準年から現在-42.7%減となっています。

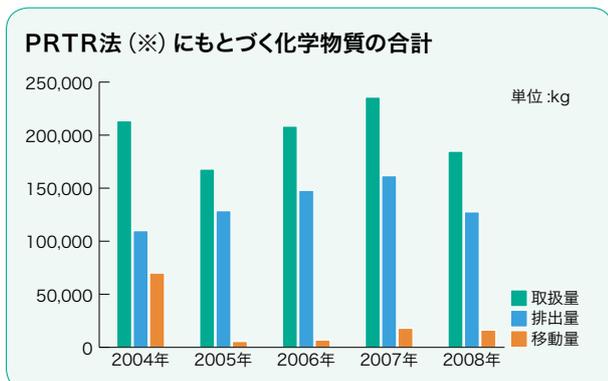
(目標) 1990年基準として、2010年度に-40%を目指す



※泉北工場は2004年12月に閉鎖

化学物質リスク低減への取り組み

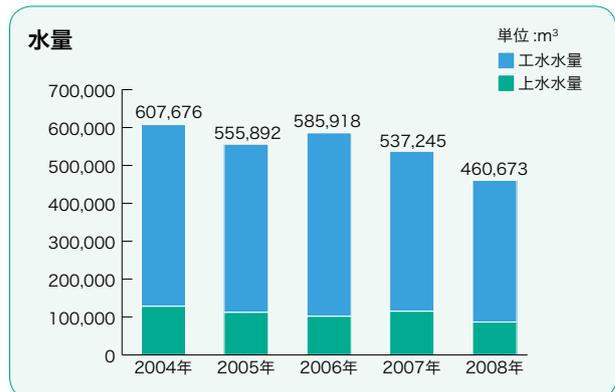
当社では、主に製品塗装に使用するキシレン、トルエン、エチルベンゼンの揮発性有機化合物が90%以上を占めます。鉄管製品への塗装量を削減するため、各種改善策に取り組みます。



(※) PRTR法: 有害性のある多種多様な化学物質の環境中への排出量および事業所外への移動量のデータを把握し公表するしくみ。

生産4工場の水購入量

水資源の確保が重要な課題ですが、当社の生産工場でも水使用量の削減に取り組んでいます。2008年度の生産4工場の水購入量合計は、460,673m³ (前年度比14.3%削減)となりました。



環境に配慮した輸送

2006年から施行された「改正省エネ法」で特定荷主に指定されました。2007年度より中長期的(3~5年)にみて、毎年平均1%の削減計画が義務付けられ、その達成に向け、出先置場への直輸送推進・OEM製品の直輸送推進・各置場からの逆輸送低減等に取り組んでいます。その結果2008年のエネルギー使用量は、76,645GJとなり、前年と比べ約16%の低減となっています。



地球温暖化防止への取り組み

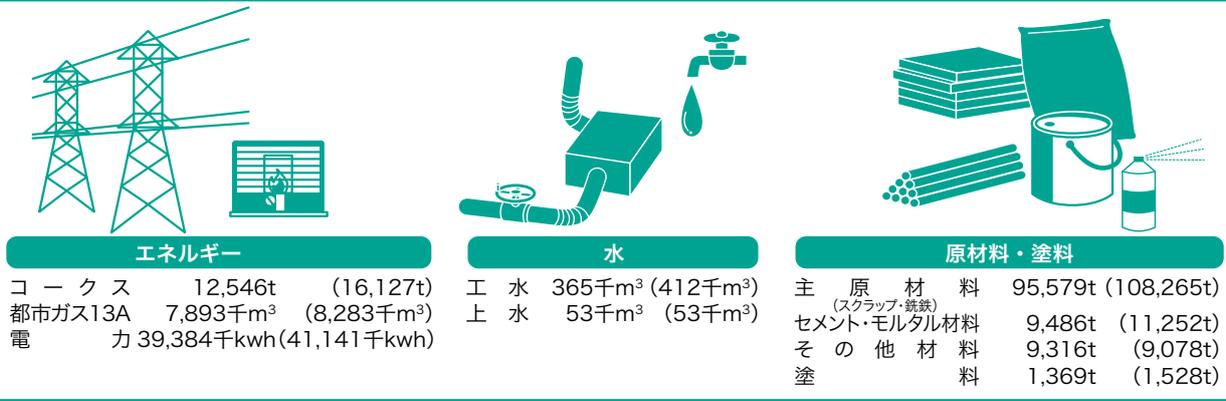
環境面からみた物質フロー

人々の暮らしを支える水道管やガス管など、産業の大動脈として大きな役割をこなすダクタイル鉄管は、大都市、郊外、農村などあらゆるところで活躍しています。敷設環境の厳しい条件下で高い適応性、優れた耐久性、容易な施工性を誇るクリモト・ダクタイル鉄管は、管路材料として水道事業・ガス事業・農業用水事業・下水道事業・工業用水事業を中心

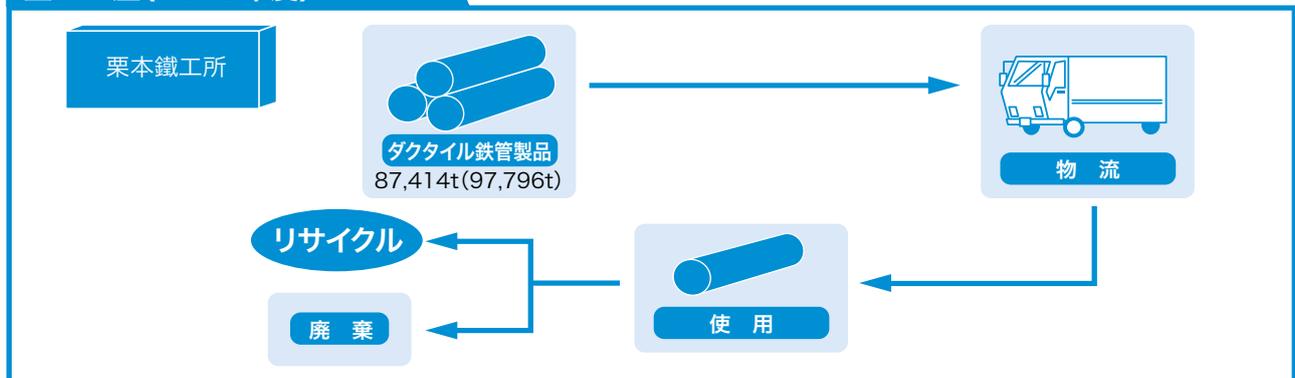
に広く使用されています。これらの製品は、リサイクル性の高い「鉄」が原材料となります。ダクタイル鉄管の製造に必要な原材料・塗料、水、エネルギーを有効に活用して、排出物を削減する努力をしています。ダクタイル鉄管製造の2工場の環境からみた物質フローを示します。

インプット(投入) (2008年度)

※数値は2008年度、()内数値は2007年度



生産(2008年度)



アウトプット(排出) (2008年度)

